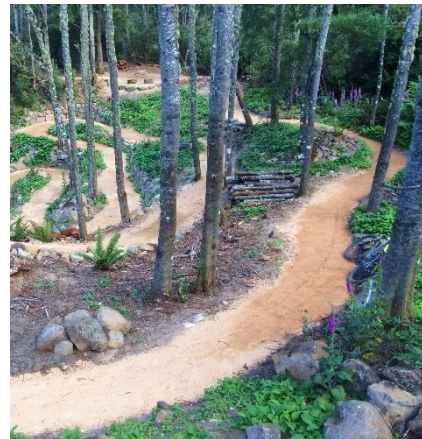




サイクルスポーツの促進を図り、市民の憩いの場となる
オフロードサイクルパーク を目指して



いわき市オフロードサイクル施設整備基本計画

令和5年2月
福島県いわき市

目 次

第1章 はじめに	
1 事業の背景	1
2 計画の前提	1
第2章 事業概要	
1 施設概要	2
2 事業用地	2
3 配置計画	3
第3章 基本方針	
1 基本方針	4
第4章 整備計画	
1 施設整備計画	6
(1) オフロードサイクルコース(林間コース)	6
(2) キッズコース	9
(3) スキルアップエリア	9
(4) クラブハウス	10
(5) 屋外トイレ	13
(6) 自転車洗車場	13
(7) 駐車場	14
(8) 広場・園地	14
(9) その他	15
2 イメージ図	16
第5章 事業計画	
1 事業スケジュール	17

第1章 はじめに

1 事業の背景

近年、趣味や健康づくりを目的に楽しむ生涯スポーツとしてだけでなく、コロナ禍での外出自粛による運動不足・ストレス解消等を目的として、これまで一般的だったオンロード(舗装道路)に加え、オフロード(未舗装道路)での自転車利用の需要が高まっています。

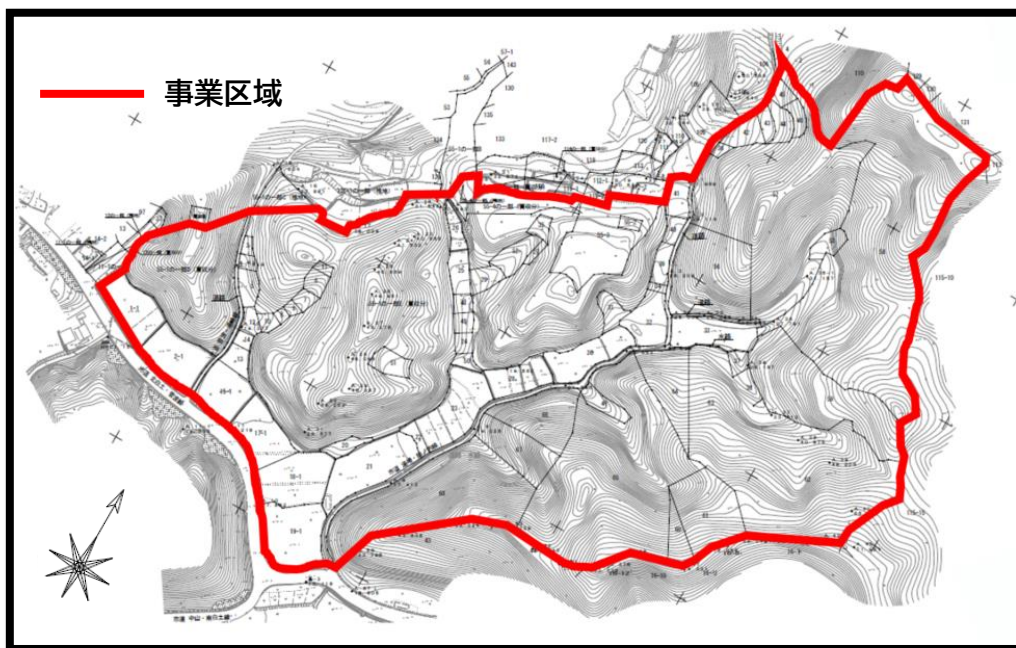
本市においては、「いわき七浜海道」や「新川・夏井川サイクリングロード」といった、オンロードのサイクルコースは整備されているものの、自然を活かした起伏のあるオフロードのサイクルコースが十分に整備されていないことから、オフロードのサイクル施設等を整備することを目的として、基本計画を策定するものです。

2 計画の前提

事業区域は、福島県いわき市平南白土字菅作地内の約 14ha の土地としました。(下図参照)

計画の策定にあたって、本施設は、主にマウンテンバイク(以下「MTB」という。)で利用できるオフロードサイクルコースをメインとした、「現地形を極力活かした市民の憩いの場」となるような施設を整備することとしました。

また、事業の実施に向けては、改めて実施設計などにより、より具体的な検討を行うこととし、本計画では、事業方針や事業規模などを定めることを主眼としています。



平面図

第2章

事業概要

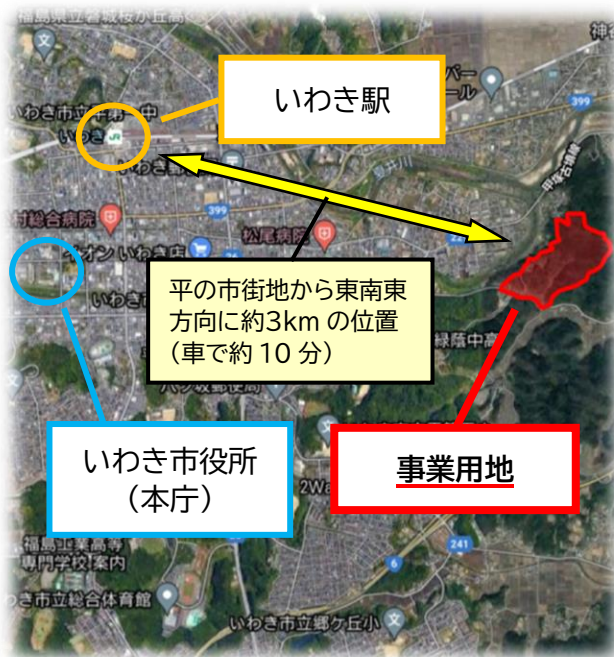
1 施設概要

本施設の基本構成については、次のとおりとします。

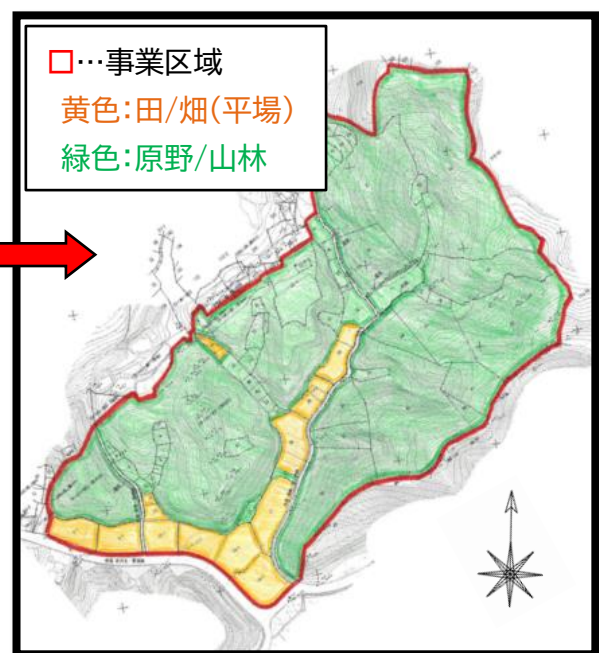
- オフロードサイクルコース(主に MTB での利用を想定)
- キッズコース(子供向けの自転車練習場)
- スキルアップエリア(ビギナー練習エリア、パンプトラック、ジャンプコースなど)
- クラブハウス(管理室・売店、レストハウス・レクチャールーム、レンタサイクル収納庫、更衣室・シャワー室、トイレ)
- 屋外トイレ
- 自転車洗車場
- 駐車場
- その他必要な設備等

2 事業用地

- 事業箇所
福島県いわき市平南白土字菅作 地内
 - 事業面積
132,105 m²(うち平場:14,735 m²)
- ※ 一部民地(未買収地)があるため、現在も用地交渉に取り組んでいます。



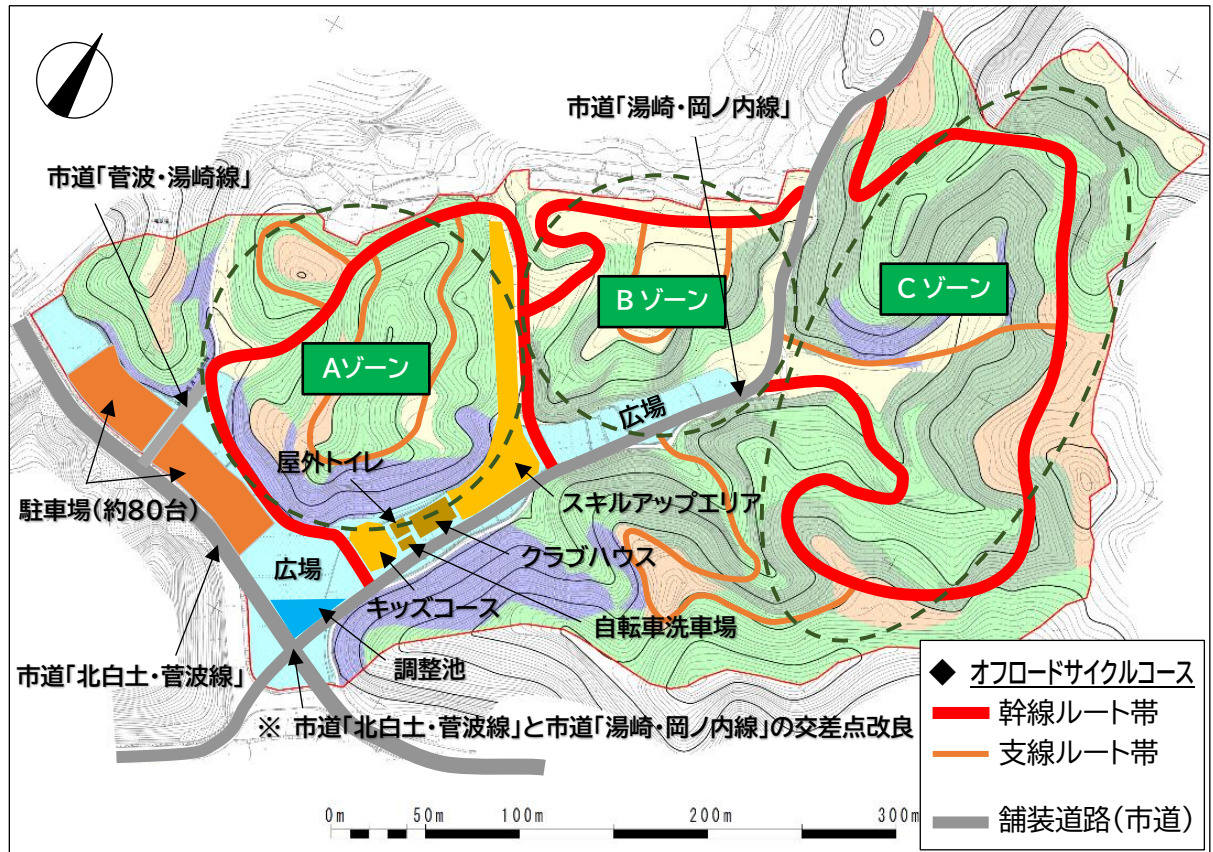
位置図



現況平面図

3 配置計画

施設配置を次のとおり計画します。



配置計画図

第3章 基本方針

1 基本方針

(1) 本事業の基本目標

- 本施設は、「市民の憩いの場」であること、「市民のスポーツ参加の場」であること、そして「本市の地域活性化に資する場」であることを前提とします。
- 「市民の憩いの場」と「市民のスポーツ参加の場」としては、本施設で市民がオフロードサイクルスポーツに参加し、自然環境の中でのスポーツやレジャーを楽しむことで、健康で豊かな生活を実感できることを目指します。
- 「本市の地域活性化に資する場」としては、本施設で市民がオフロードサイクルスポーツを介して健康で元気に活動しつつ仲間の輪を広げるとともに、市外から本施設に利用者が訪れて、市民との交流や消費活動により経済効果をもたらし、その効果が市内に波及していくことを目指します。
- 本施設の整備にあたっては、本市および国や県の上位・関連計画との整合を図りつつ、多様な主体と連携し、参加者の裾野を広げながらサイクルスポーツとサイクルツーリズムを振興します。

(2) 整備施設の基本方針

サイクルスポーツの促進を図り、市民の憩いの場となる

「オフロードサイクルパーク」を目指します

- 本施設は、ハード面とソフト面のサービス水準が、ともに高い施設を目指します。
- 未経験者や若者、女性、家族連れなどが気軽に利用しやすい施設を目指します。
- 初心者から上級者まで、誰でも繰り返し利用できるように、スキルアップしながら楽しめるコースやインストラクターによる指導、サービスが充実している施設を目指します。
- 公認レースが開催できる施設を目指します。
- 通年利用できる、身近なスポーツ・レジャー施設を目指します。
- 市内のサイクル関連施設と連携し、サイクルスポーツを推進する施設を目指します。
- 市内の宿泊施設や観光・商業施設と連携し、サイクルツーリズムを推進する施設を目指します。
- 官民が連携しつつ、計画的な事業マネジメントで運営される施設を目指します。

(3) ターゲット

利用を促進しつつ公共事業として適切な運営を図るため、本施設の主なターゲット(客層)を次のとおり設定します。

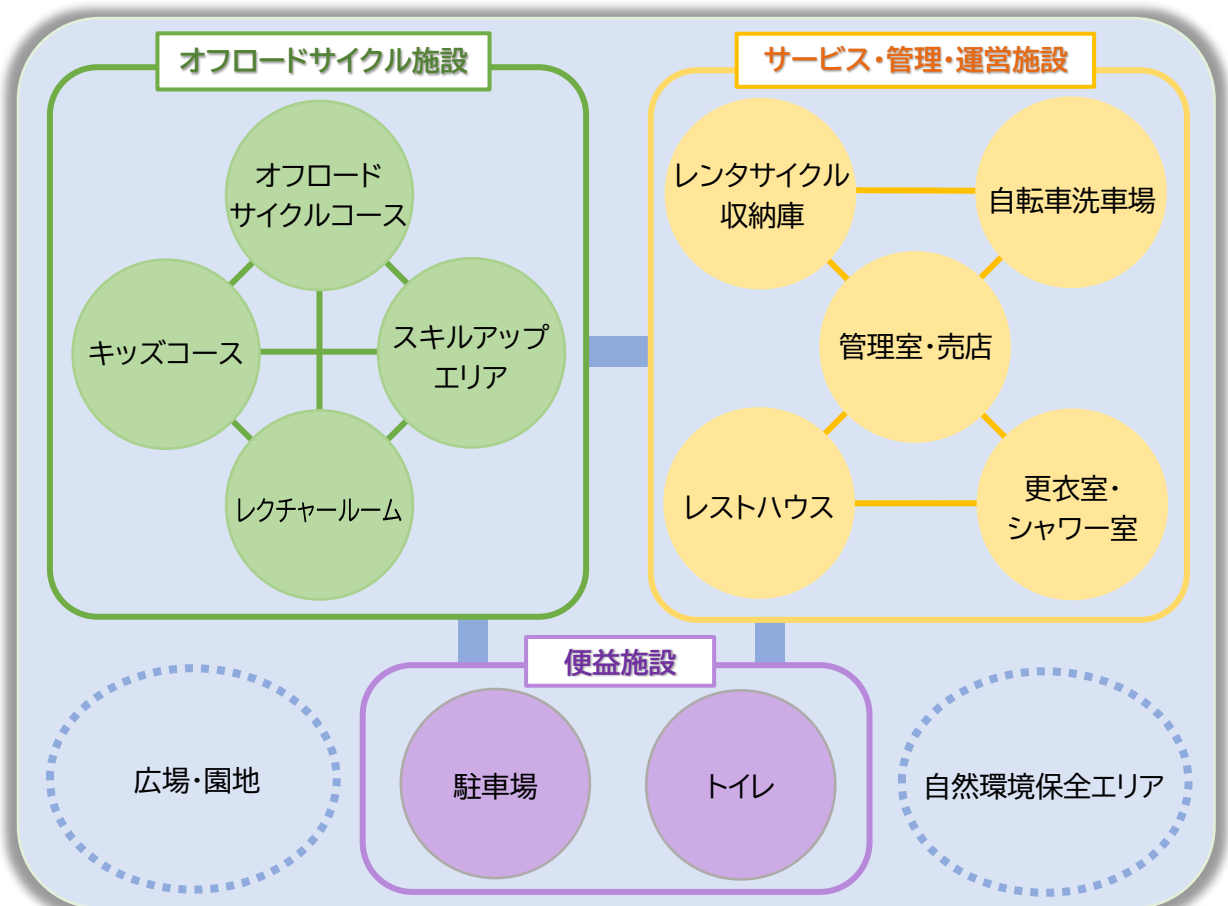
- 需要圏域の既存愛好者やさらなる広域の愛好者
- 市民をはじめとする未経験者や若者、女性、家族連れなどの利用者
- 公認レースやサイクルイベントの参加者

(4) 目標利用者数

- 本施設の年間延べ利用者数は、通常営業時に9,000人、イベント開催時に1,500人で、年間10,500人を目標とします。
- イベント開催では、公認レースを年1回開催して1,000人、地域イベントを年2回開催して500人(250人/回)を目標とします。

(5) 施設構成

オフロードサイクル施設とサービス・管理・運営施設、便益施設を配置しつつ、その他の事業区域は広場・園地と自然環境保全エリアで構成します。



施設の構成

第4章 整備計画

1 施設整備計画

(1) オフロードサイクルコース(林間コース)

① 林間コースのルート帯と幅員

- 林間コースは、現場の状態を見極めながら造成を行う必要があることから、基本計画ではルート帯(一定の幅での路線変更を許容し、概略の延長を定めるもの)を設定します。
- 改良・舗装する市道「湯崎・岡ノ内線」をコースとしても利用しつつ、またA～Cゾーンを反時計回りに周回する幹線ルート帯(メインコース)を設けます。
- 各ゾーン内の土地や環境を有効活用しつつ、変化に富んで魅力的な走行環境を利用者に提供するため、幹線ルート帯から分岐する支線ルート帯(ショートコース)を設けます。
- 幹線ルートの幅員は2.5m程度とします。また、支線ルートの幅員は、初心者の利用を配慮してA・Bゾーンは平均2m、Cゾーンは平均1.5mとしますが、地形等の状況によっては最小0.5mまで狭めます。
- 各ゾーン上部までの走行者の上りの負担を軽減するため、緩傾斜である市道「湯崎・岡ノ内線」を、各ゾーンを周回するコースの一部として活用します。



国営アルプスあずみの公園

幹線ルートのイメージ



国営アルプスあずみの公園

支線ルートのイメージ

② 林間コースの構造

- 公認レースの規定で定められている周長4～6kmを満たすため、全長を6km(林間コース5.6km、市道「湯崎・岡ノ内線」の走行区間0.4km)とします。なお、同規定では、舗装区間を15%以下にすることが定められていますが、市道「湯崎・岡ノ内線」の走行区間は全長の6.7%です。
- 公認レースのスタート・ゾーンとフィニッシュ・ゾーンは、公認レースの規定に準じた長さ(最大150m)と幅員(最大8m)で設けられるように、広場を確保しておきます。
- 林間コースの線形は、極力、自然環境や地形を活かしつつ、直線的なコースや林間などを縫うような蛇行コース、滑らかな土の路面が3次元にうねるように続くフロートレイル、地形に沿って急カーブが連続する葛折りのコースなどのショートコースの組合せで変化を持たせます。
- 林間コースの縦断勾配(コース進行方向の勾配)は、浸食の防止等の観点から15%以下とし、走行者のスキルを考慮して以下の勾配を目安としますが、上りの縦断勾配は初心者や子どもでも少ない負担で走行できるようにできるだけ緩くします。

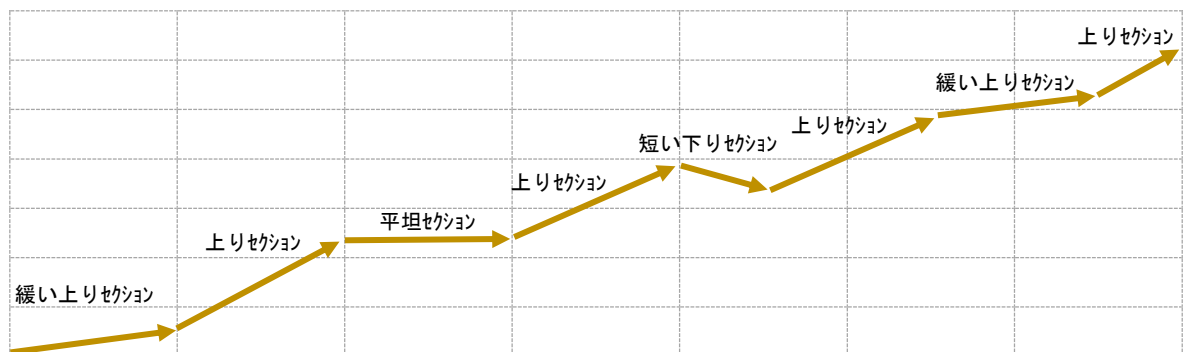
林間コースの縦断勾配の目安

スキル	上り	下り
初心者	平均2%	平均3%
中・上級者	平均4%	平均5%

- 上りの縦断勾配は、走行者の負担を軽減するために、次のイメージで構成し、連続した上りを避けることとします。

林間コースの縦断勾配の目安

(横軸 30m/辺 程度)



- 横断勾配(コース水平方向の勾配)は、排水処理と洗掘防止のため、3～5%(舗装路2%)とします。
- 事業区域は急傾斜地と粘性土が多いことによりコースの崩壊や浸食が起こりやすく、特にカーブや坂などでは走行や雨水によるコースの崩壊や浸食を防ぐため、延長の半分の区間は「まさ土」などの客土等による整備を見込みつつ、要所で砂利や岩石、木道などでの路面の補強や排水対策を実施します。これにより、日常的なメンテナンスの頻度や負担を軽減します。
- 路面の補強を行わない箇所においても、山側に素掘りの排水路を作り、水を1箇所に集めて暗渠パイプで谷側に流すなどの排水対策を施します。

③ 林間コース上の障害物や設備等

- 曲率半径が小さい急カーブや速度が高まるカーブには、バーム(バンク(傾斜)付きカーブ)を設けます。
- 障害物は、延長5.6kmの林間コースにおいて、100mあたりに1箇所程度(全体で60箇所程度)設けることを見込みます。障害物の位置や規模、種類、形状、構造は、現場での検討・判断に基づき決定します。
- 障害物は、段差やコブ(ローラー)、ジャンプ台など、その場の地形や自然素材をそのまま活かしたものや土工や丸太、岩などで手を加えたもの、さらには、木橋や木壁などのように人工的に造作したものなどを設けます。
- 林間コース沿線に休憩のためのベンチ・スツールを10箇所程度配置することを見込みます。ベンチ・スツールの位置は、現場での検討・判断に基づき決定しますが、Bゾーン内の平市街地を眺望できる位置や、連続した上りコースの終点付近などに配置します。
- 走行者のコースからの逸脱を防止するため、危険箇所に防護柵を設けます。なお、防護柵の位置は現場での検討・判断に基づき決定しますが、延べ1,000m程度を見込みます。
- コースの分岐、障害物や危険箇所の存在などを示すサインを林間コース沿線に配置します。なお、サインの位置は、現場での検討・判断に基づき決定しますが、40箇所程度を見込みます。
- サインの表示内容は、公認レースで規定されているコース標示を踏まえながら、子どもを含む一般利用者でも分かりやすいものとします。



かすみがうらドッグラン&MTBパーク

バーム



国営アルプスあずみの公園

コブ(ローラー)



八幡浜市民スポーツパーク

ジャンプ台



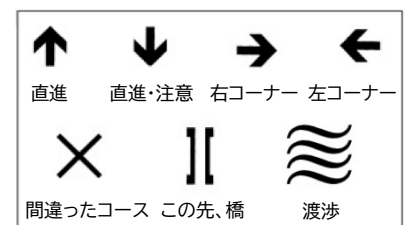
国営アルプスあずみの公園

休憩ベンチ



八幡浜市民スポーツパーク

公認レース用サイン



出典：国際自転車競技連合競技規則

公認レース規定コース表示

(2) キッズコース

- 幼児用のランニングバイク(ペダル・ブレーキのない自転車)での走行や、子ども向けのMTBなどの練習に用いるコースとして、平坦地に250㎡程度のキッズコースを整備します。
- 緩やかな起伏やカーブを設けた幅員2.5m程度の周回コースとし、客土を入れて路面を整地します。
- 定期的に、指導者(インストラクター)によるスクールを開催します。



キッズコース

(3) スキルアップエリア

- 初心者が乗車姿勢や速度調整、ハンドル操作、重心移動などの初歩的な練習を行うことができ、またその他の利用者が各々のスキルにあわせて、段差越えやコーナーリング、バーム走行、ジャンプなどのテクニックを身につけながらスキルアップできるコースを、スキルアップエリアとして整備します。
- スキルアップエリアは、2,700㎡程度の広さに、ビギナー練習エリアとパンプトラック、ジャンプコースで構成し、客土を入れて整備することとしますが、用地に余力があり配置可能な場合は、バームコースやドロップ(段差)コース、トライアルコースなどの整備も検討します。
- ビギナー練習エリアは、初心者の基礎的な走行練習の場として、平坦地に走行自由な広場や直線とカーブのコース、一本橋や丸太などの段差、土工のコブなどの障害物を配置します。
- パンプトラックは、コブとカーブで構成し、凹凸の上下の重心移動を使って加速を付けること(パンピング)により、漕がずに走行できる周回コースとします。
- ジャンプコースは、ジャンプ台が連続するコースとし、レベルによってジャンプ台の大きさを選択できるように複数のコースを設けます。



ビギナー練習エリア



パンプトラック



ジャンプコース

(4) クラブハウス

- 建築物としては、管理室・売店、レストハウス・レクチャールーム、レンタサイクル収納庫、更衣室・シャワー室、トイレを整備します。
- クラブハウス内には、管理室・売店、レストハウス・レクチャールーム、レンタサイクル収納庫、更衣室・シャワー室、トイレを整備し、一体の建築物としますが、トイレは汚れた利用者が頻繁に利用することが予想されるため、利用の利便性と快適性、管理の効率性を考慮して、別に屋外トイレを整備します。
- クラブハウス内の各諸室は、利用と管理の動線を考慮して配置します。
- 建築物の意匠と構造は、公共建築物等における木材の利用の促進、エネルギー使用の合理化、施設の長寿命化、ユニバーサルデザイン、自然災害への対応に配慮しつつ、周辺の自然景観と調和する形状の木造とします。



正面(南側) 立面図



背面(北側) 立面図



側面(西側) 立面図



側面(東側) 立面図

① 管理室・売店

- 管理室・売店は20㎡程度を見込み、管理者と指導者が執務する管理室と受付カウンター、飲料・軽食やオフロードサイクル用具、土産品などを販売する売店を設けます。



管理室



売店

② レストハウス・レクチャールーム

- 利用者の休憩と防寒・防暑対策や情報交換、コミュニケーションの場として利用できるレストハウスと、オフロードサイクルの乗車・走行の指導、ビルダーの養成講座や自然環境の学習会などを行うレクチャールームを一体の空間として、100㎡程度で整備します。
- レストハウスとレクチャールームの共有空間として、オフロードサイクルや自然環境に関する展示コーナーや図書コーナーを設けることにより、利用者の学習や情報交換を促します。
- 走行フィールドなど屋外の様子を見ることができ、また、開放感がある見通しのよい空間とし、ウッドデッキなどの屋外には休憩スペースを設けます。
- けが人や病人を一時的に収容するため、救護室と授乳室を兼用するブースを設けるとともに、利用者が使用できるロッカーを配置します。



レストハウス・レクチャールーム



図書コーナー



屋外休憩スペース

③ レンタサイクル収納庫

- レンタサイクル収納庫を40㎡程度で整備し、自転車とヘルメット、メンテナンスのための備品や工具を収納します。
- レンタサイクルは、幼児用のランニングバイク、子ども向けのMTB、大人向けのMTBの設置を予定します。なお、利用者層や同行者のニーズを考慮して、電動アシスト付きMTB(e-MTB)の導入も検討します。



レンタサイクル収納庫

④ 更衣室・シャワー室

- 男女別にロッカー付き更衣室とシャワー室(男女別に各3ブースを予定)を20㎡程度で整備します。



更衣室



シャワー室

⑤ トイレ

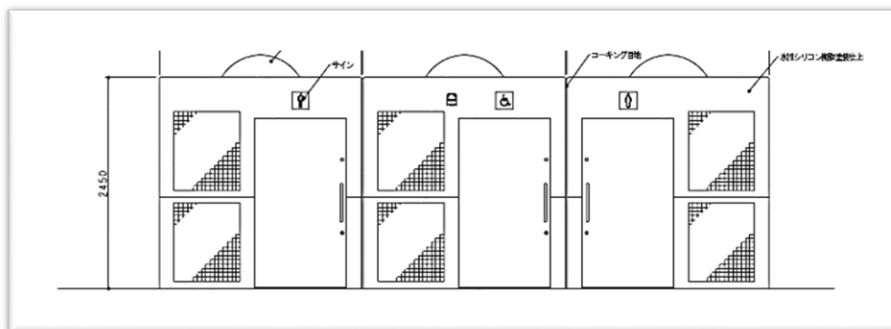
- 更衣室・シャワー室に隣接した位置に、トイレ(男女別に各1据を予定)を約5㎡で整備します。



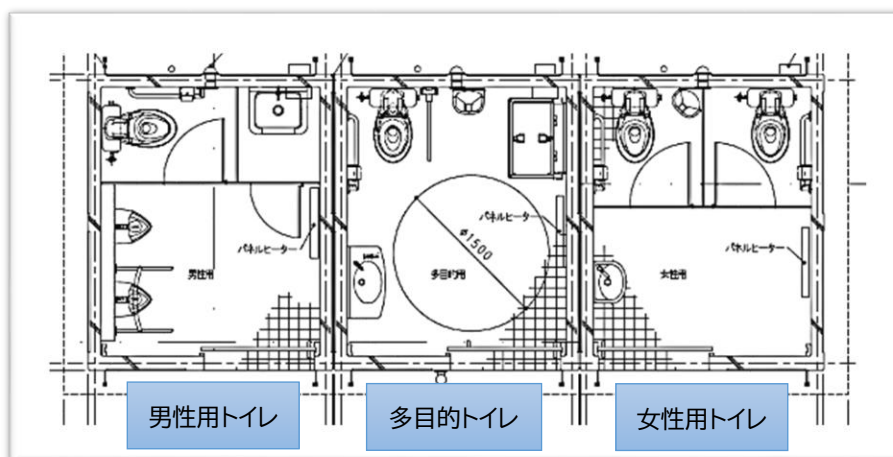
トイレ

(5) 屋外トイレ

- 屋外トイレの面積は、50㎡程度を見込みます。
- 男性用トイレには、大便器1据及び小便器2据、女性用トイレには、大便器2据の整備を予定します。
- そのほか、多目的トイレに、大便器1据の整備を予定します。



屋外トイレ 立面図



屋外トイレ 平面図

(6) 自転車洗車場

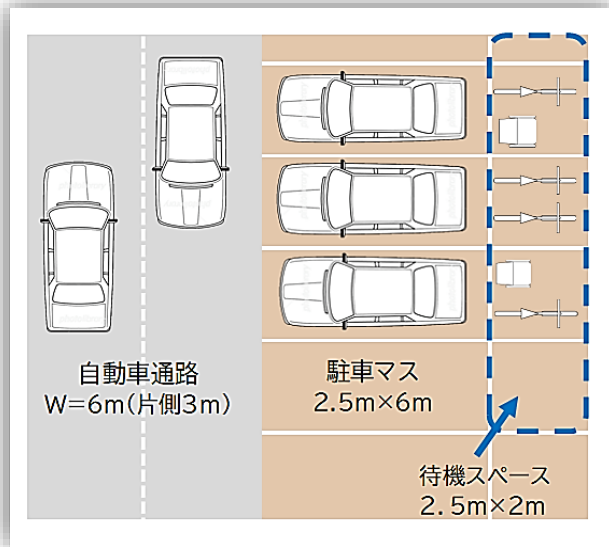
- レンタサイクル収納庫(クラブハウス)付近に、5台分程度の水栓付き自転車洗車場を、20㎡程度の舗装により整備します。



自転車洗車場

(7) 駐車場

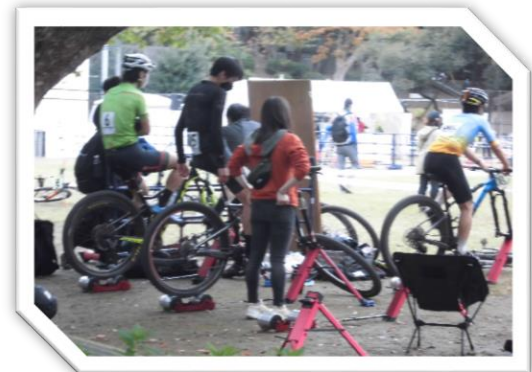
- 幅員6mの自動車通路の両側に、待機スペース付き駐車マスを設置した、駐車台数80台程度、面積2,200㎡程度の駐車場を整備します。



駐車場レイアウト

◆ 待機スペース

車で訪れた利用者が、自転車の組み立て・調整や、ウォーミングアップ・休憩を行うためのスペース。



待機スペース

(8) 広場・園地

- オフロードサイクルコース、キッズコース、スキルアップエリア、クラブハウスやトイレなどの建築物、自転車洗車場、駐車場を除く平地部の5,500㎡程度を広場・園地として整備します。
- 広場・園地は、芝舗装に東屋3基程度、ベンチ20基程度を配置するとともに、必要な箇所に防護柵(600m程度)や案内板、誘導表示板などのサイン(12基程度)を配置します。
- 公認レースなどのイベント開催時には、広場は関連用地として利用します。



レースのスタートゾーン



レースの補給・技術支援ゾーン



レースの参加者待機スペース



大会本部スペース



出店・展示スペース



レース観戦用ベンチ

(9) その他

① 基盤整備などの計画

- 平地部の現状は、ほとんどが水田等の耕作地であるため、本施設の整備にあたっては、表層の深さ30cm程度(体積5,000m³程度)は掘削・処理を行い、Bゾーンの斜面や調整池の掘削土を活用し、高さ1.3m程度の盛土(21,000m³程度)を行い整地します。
- 雨水排水流量を計算した上で、幹線・支線の排水路等の排水施設や調整池を整備します。
- オフロードサイクルコース以外の山林部は、事業区域の基盤となる自然環境保全エリアとして保全します。

② 関連事業の計画

- 市道「湯崎・岡ノ内線」は、集落を連絡する道路として幅員5mで改良・舗装し、一部はオフロードサイクルコースとして活用します。
- 市道「北白土・菅波線」は、見通しの悪いカーブの線形改良に加え、市道「湯崎・岡ノ内線」との交差点改良を行います。

③ その他

- 令和4年8月にサウンディング型市場調査を実施し、民間事業者との「対話」を通じて、事業参画に係る市場性を調査するとともに、施設の魅力・機能向上につながる事業アイデアやノウハウについて意見交換を行いました。
- サウンディング型市場調査で得られた意見については、今後の実施設計の作成に向け、改めて検討していくものとします。
- なお、本計画はあくまで基本計画であり、計画の内容については、実施設計を作成する過程において変更となる場合があります。

サウンディング型市場調査で得られた主な意見

(1) 施設の設計建設・管理運営に係る参画意欲・手法について
<ul style="list-style-type: none">・ 事業参画の決定については、整備施設の水準や事業者の選定手法による・ 管理運営の手法としては、指定管理体制を想定する
(2) 施設の機能・魅力向上につながる事業アイデアやノウハウについて
<ul style="list-style-type: none">・ 複合施設としての事業展開（キャンプ・グランピング、BBQ広場、シェアトレイル等）・ 特徴的なセクション（見せ場）の作成や観客を意識したコース作り
(3) 整備施設の主要なリスクとその対応策
<ul style="list-style-type: none">・ 自然災害によるコース等の損壊<ul style="list-style-type: none">☛ 災害時、早急な復旧を行うための体制づくり・ オフロードコース等における怪我人の発生<ul style="list-style-type: none">☛ 管理棟まで怪我人を運び出すことを想定した設計・コース作り
(4) 事業の採算性について
<ul style="list-style-type: none">・ 施設利用者数等の試算が困難なため、現時点での妥当性の判断は難しい

2 イメージ図

(1) アイレベルパス図

次に、アイレベルパス図を示します。



アイレベルパス図

(2) 鳥瞰図

次に、鳥瞰図を示します。



鳥瞰図

第5章 事業計画

1 事業スケジュール

- 今後については、概ね次のようなスケジュール(予定)のもと事業に取り組んでいくこととし、令和10年度内の施設供用開始を目指します。
- オフロードサイクルコースの造成は、専門家の助言によると1チーム3人体制で、1日に延長60～80m程度の工事を見込むことが望ましく、延長5,600mの本施設のコースでは、事前のルート帯の検討・決定、下草刈りや倒木の除去、概成後の試走による調整・改良を含めて、コースの造成工事には約1年間の工期を見込む必要があります。
- また、現場での検討・判断が重要なオフロードサイクルコースの造成は、実施設計の設計図に基づいて進める従来の公共工事の発注方式は馴染みにくく、設計・施工を一括で発注することが望ましいと考えられます。

事業スケジュール(予定)

No.	業務内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
1	基本計画の策定	→						
2	用地交渉・用地買収	→	→					
3	事業マネジメントの検討		→					
4	サウンディング型市場調査			→				
5	測量・地質調査			→				
6	実施設計				→			
7	施設整備工事(土壌改良含む)					→	→	
8	MTBコースの造成工事						→	
9	施設供用開始							●



－ いわき市オフロードサイクル施設整備基本計画 －

担当 いわき市 観光文化スポーツ部 スポーツ振興課
〒970-8686 福島県いわき市平字梅本 21 番地

TEL 0246-22-7504

FAX 0246-22-1285
